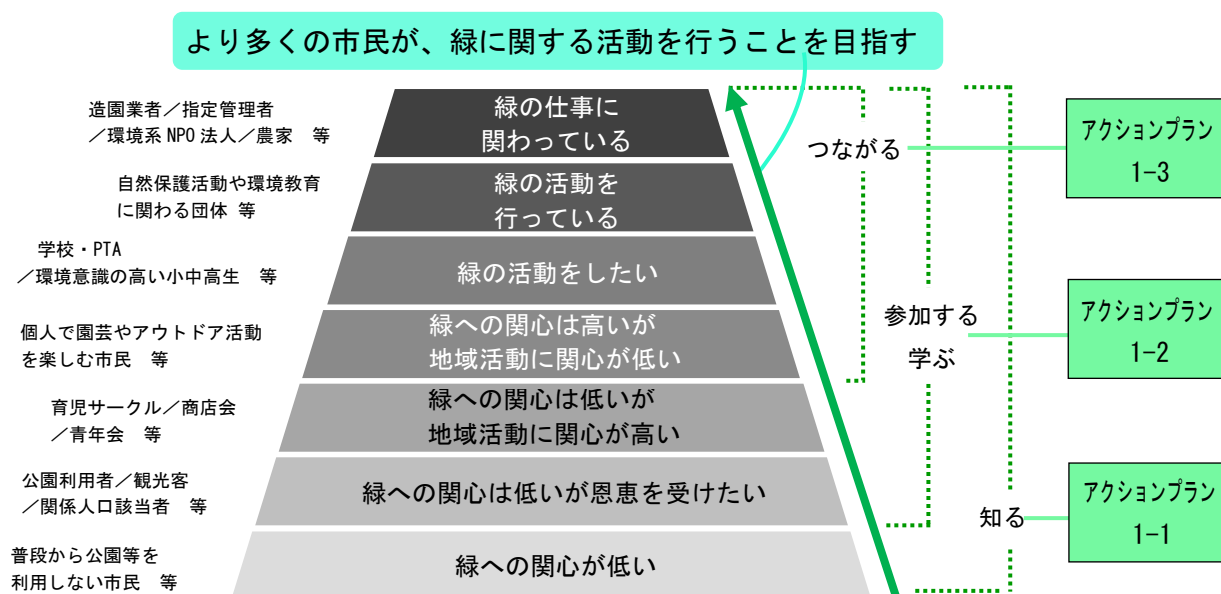


第4章 各基本方針のアクションプラン

1) 基本方針1 「人」：水と緑を支えるコミュニティづくり

水と緑の活用に向けて市民・地域団体・事業者・行政が一体となり、水と緑について学び合い、意見交換する場や機会をつくることにより、活発なコミュニティを育む。

【プレイヤー分類図】



アクションプラン1-1 メディアと連携した水と緑の情報を発信

より多くの人に加賀市の水と緑に興味を持ってもらうために、既存のメディアを活用し、ガーデンシティ構想推進団体の活動情報の紹介や、活用アイデアを発信することで、市民や観光客等が加賀市の水と緑の活動を知るきっかけをつくる。

ひもづく課題

- ②人材・担い手不足 ⑥住民同士の交流機会の不足 ⑦発信と認知度の不足

取組

項目	取組	説明
1-1-①	既存の情報サイトやSNSを活用し、水と緑を活用したライフスタイルのアイデアを市民から募集し発信する	公園や海や山、川など加賀市の自然資源を活かした遊び方や暮らしに取り入れる工夫を誰でも投稿・閲覧できるようにする。
1-1-②	既存の地域情報誌等と連携し、水と緑に関する記事を連載する	市内で発行されている広報誌やフリーペーパー等に情報を掲載し、それらの記事をまとめた冊子をつくる。
1-1-③	新たにWebページを作成し、水と緑の活動の情報をまとめ、発信する	ボランティア活動に参加したいが情報にたどり着けないということを避けるため、活動団体の取組や活動日等の情報を一覧で確認できるWebページをつくる。

アクションプラン1-2

水と緑に関連するイベントや学びの場の創出

加賀市の水と緑の理解を深めるフォーラムや水と緑の魅力を体験するイベントなど、誰でも参加しやすいイベントを開催することで、より多くの市民がこの構想に関わるきっかけをつくる。また、市民が水と緑に関する知識や技術を学び合うための場をつくる。

ひもづく課題

- ②人材・担い手不足 ④緑に対する価値観のアップデート
⑥住民同士の交流機会の不足 ⑦発信と認知度の不足

取組

項目	取組	説明
1-2-①	さまざまな方面の専門家呼び、フォーラムの開催	市内の多様な自然を、生物多様性、レクリエーション、健康など様々な観点から評価し、専門家、行政、市民が議論し学び合うフォーラムを開催する。
1-2-②	各地域の水と緑の拠点や活動を巡るイベントの開催	各地域で行われている活動や豊かな自然が残る地域をより多くの人々に知ってもらうため、それらを巡り、活動を体験することができるイベントを開催する。
1-2-③	水と緑を活かした知識やノウハウを学べる講座の実施	活動団体同士が、自然に関する知識や手入れ、活用のための技術などお互いの得意なことを学び合う講座を開講する。

アクションプラン1-3

水と緑の活用を促進する話し合いの機会づくり

市民や市民団体、水と緑に関わる事業者が課題やニーズを共有する話し合いの場やプラットフォームを用意することで、関係者同士が連携するためのネットワークをつくる。

ひもづく課題

- ②人材・担い手不足 ⑥住民同士の交流機会の不足 ⑦発信と認知度の不足

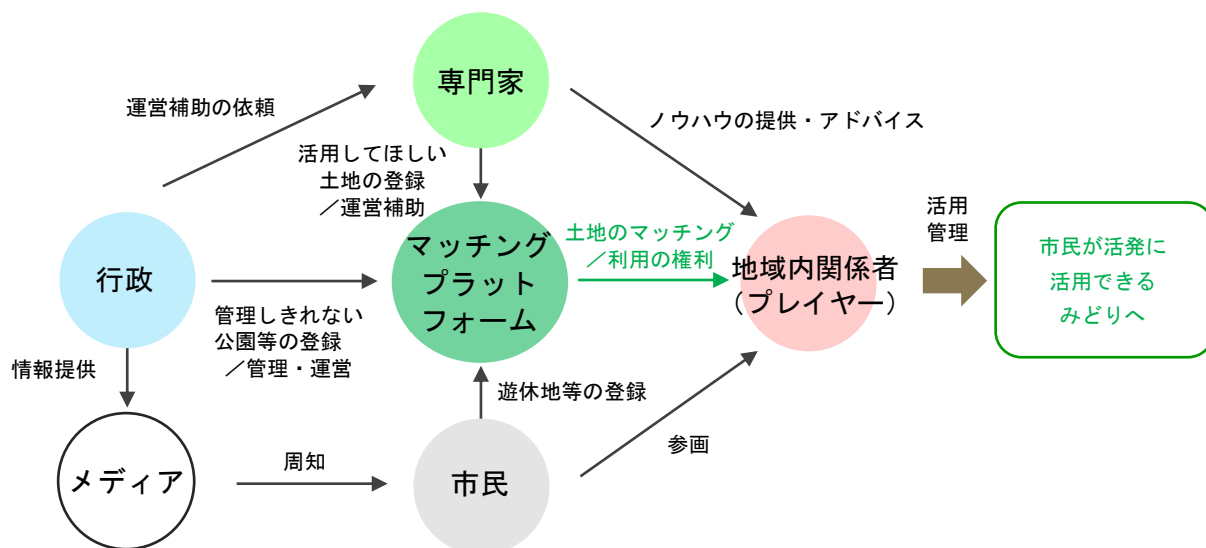
取組

項目	取組	説明
1-3-①	水と緑の関係者が参加する円卓会議の実施	専門家、活動団体、行政などが集まり、活動内容を共有し、課題や困りごとを話し合い解決していくための円卓会議を定期開催する。
1-3-②	関係者が情報や課題を日常的に共有できるプラットフォームの構築	円卓会議では話きれない細かな情報やそれぞれが抱える課題を常に見える化する。

2) 基本方針2「仕組み」： 遊休地活用の仕組みづくり

市内の公園緑地や空き地等の低未利用地を地域コミュニティが自主的に運営し、暮らしの中の様々なニーズに応じて、緑を有効活用する仕組みをつくる。

【公園緑地・遊休地等活用の推進体制イメージ図】



アクションプラン2-1

公園緑地や遊休地の活用推進

行政が管理しきれない公園・緑地や市民の管理が難しい空き地・耕作放棄地等の遊休地を、活動の場として活用してもらおうマッチングの仕組みをつくり、有効活用を図る。

ひもづく課題

- ③維持管理の継続
- ⑥住民同士の交流機会の不足
- ⑧活用されるための制度設計
- ⑨活用する費用の不足

取組

項目	取組	内容
2-1-①	遊休地活用の社会実験	マッチングの仕組みづくりに向け、場所や期間を限定したモデルプロジェクトを試行・評価し、改善点などを洗い出すことで実装のための準備をする。
2-1-②	仕組みに関する意見交換の機会づくり	行政や専門家、地域内関係者、市民等が意見交換する機会をつくり、ネットワークを形成する。
2-1-③	遊休地マッチングの仕組みの運用	遊休地を活動の場として構想推進団体に活用してもらおうようなマッチングの仕組みをつくり、サービスを運用する。
2-1-④	遊休地登録と土地活用情報の周知	市民に対して遊休地登録の仕組みや、土地活用情報を周知することで、遊休地のマッチングやプレイヤーへ参加を推進する。

3) 基本方針3「場所」：地域経済や地域活動の起点となる場所づくり

地域の資源を活かした水と緑による心と体が満たされる場所づくりを図り、これらをつなぐネットワークを構築し、住民や観光客等が集まることで、新たな地域経済と地域活動を生み出す。

アクションプラン3-1

自然資源を活かしたガーデンシティの象徴となる場所づくり

加賀市固有の自然環境から得られる資源を活かし、その地域住民の暮らしや活動と共に、観光客や関係人口が集まるガーデンシティの象徴となる場所を整備する。

ひもづく課題

⑤景観改善 ⑩生物多様性の保全

アクセスルート別の取組

アクセスルート	項目	取組
国道8号	3-1-①	四季を感じる緑空間づくり
	3-1-②	市民・沿道事業者による緑の創出スペースの提供

エリア別の取組

エリア	項目	取組
大聖寺・城下町	3-1-③	錦城山の環境整備と江沼神社の庭園整備
	3-1-④	まちなかのポケットパーク整備
山代温泉・萬松園	3-1-⑤	(仮称)萬松園公園の整備
	3-1-⑥	萬松園の森の再生に向けた拠点づくり
片山津温泉・柴山湯	3-1-⑦	柴山湯を活かした親水空間の整備
動橋駅・動橋川	3-1-⑧	交流拠点となる水と緑を活かした動橋駅前広場づくり
加賀温泉駅	3-1-⑨	加賀温泉駅前の広場整備
橋立・漁港	3-1-⑩	漁港周辺の自然環境に合わせた拠点づくり
山中温泉・鶴仙溪	3-1-⑪	温泉や周辺環境を活かした菊の湯前の広場整備
	3-1-⑫	旧よしのや依緑園別荘の整備と活用
	3-1-⑬	まちなかにおける緑化活動の促進

アクションプラン3-2

水と緑を活かした「健康」ガーデンツーリズム

ガーデンシティの象徴となる場所から、寺社仏閣などの名所旧跡、個人の庭や、海、川、山といった多様な自然環境をつなぐ水と緑の認定を行い、水と緑を巡る体験型ツアーを地域と協働で企画し、「健康」要素が加わった新たなローカルツーリズムをつくる。

ひもづく課題

- ①健康 ④緑に対する価値観のアップデート ⑤景観改善 ⑦発信と認知度の不足
⑧活用されるための制度設計

地勢別の取組

地勢	項目	取組
全域	3-2-①	次世代交通サービスと連携したツーリズム
田園部・山間部	3-2-②	農林業体験や援農を楽しむツーリズム
山間部	3-2-③	森林浴を楽しむツーリズム

エリア別の取組

エリア	項目	取組
大聖寺・城下町	3-2-④	まちなかの自然資源を周遊するモビリティとの連携
山代温泉・萬松園	3-2-⑤	温泉街と（仮称）萬松園公園の周遊の確立
片山津温泉・柴山湯	3-2-⑥	柴山湯の水辺周遊の確立
橋立・漁港	3-2-⑦	北前船主邸宅の開放と活用
山中温泉・鶴仙溪	3-2-⑧	山中温泉菊の湯と鶴仙溪の周遊の確立

4) 基本方針4「景観」：地域を魅せる景観づくり

緑豊かな山々と、それを源流とする河川や海岸等の水辺のほか、雄大な自然や暮らしの中における景観を継承、創出する。

アクションプラン4-1 魅力的な風景づくり

これまで地域の人々が育んできた自然環境を次世代へ継承するために、これらの植栽の更新や保全に加え、文化的景観を阻害する人工物の修景を行う。

ひもづく課題

⑤景観改善 ⑩生物多様性の保全

アクセスルート別の取組

アクセスルート	項目	取組
国道8号・主要幹線道路	4-1-①	田園風景や白山への眺望を活かす沿道景観の修景
	4-1-②	移動する視点場から楽しめる風景づくり
主要幹線道路	4-1-③	インター出入り口周辺の修景

エリア別の取組

エリア	項目	取組
大聖寺・城下町	4-1-④	山の下寺院群と背後林の歴史的文化的景観の保全
動橋駅・動橋川	4-1-⑤	動橋川沿いの桜並木づくり
加賀温泉駅	4-1-⑥	魅力的な田園風景の保全
橋立・漁港	4-1-⑦	丘陵部の自然の遊び場と漁港をつなぐ風景の継承
山中温泉・鶴仙溪	4-1-⑧	鶴仙溪のサイン修景

アクションプラン4-2 風景を活かした視点場づくり

緑豊かな山々とそれを源流とする河川や海岸等の水辺のほか、これまで各地域で育まれてきた心と体が安らぐ風景を望める視点場をつくる。

ひもづく課題

④緑に対する価値観のアップデート ⑤景観改善 ⑦発信と認知度の不足

アクセスルート別の取組

アクセスルート	項目	取組
主要幹線道路	4-2-①	片山津ICから片山津温泉街を結ぶ幹線道路（ウェルカムロード）の景観づくり

エリア別の取組

エリア	項目	取組
大聖寺・城下町	4-2-②	大聖寺の城下町の街並みや白山等を望む視点場づくり
山代温泉・萬松園	4-2-③	白山等の眺望確保のための視点場づくり
片山津温泉・柴山潟	4-2-④	柴山潟と白山を望める視点場づくり
動橋駅・動橋川	4-2-⑤	水辺と白山を望める視点場づくり
加賀温泉駅	4-2-⑥	加賀温泉駅周辺からの田園と白山を望む視点場づくり
橋立・漁港	4-2-⑦	日本海を見渡し夕陽を楽しめる視点場づくり

5) 基本方針5「基盤」：自然環境を活かした基盤づくり

生態系の土台である自然環境の保全を継承し、本市の特徴的な地形や豊かな自然環境が生み出した生態系が持つ多様な機能を活かし、安全・安心で持続可能な水と緑の基盤をつくる。

アクションプラン5-1

水と緑の基盤を活かしたグリーンインフラの導入

緑豊かな自然環境が有する多様な機能を最大限に活かし、地域住民の居住環境の向上や防災・減災効果を発揮するグリーンインフラの考え方を導入し、持続可能な地域づくりを目指す。

ひもづく課題

④緑に対する価値観のアップデート ⑤景観改善 ⑩生物多様性の保全

地勢別の取組

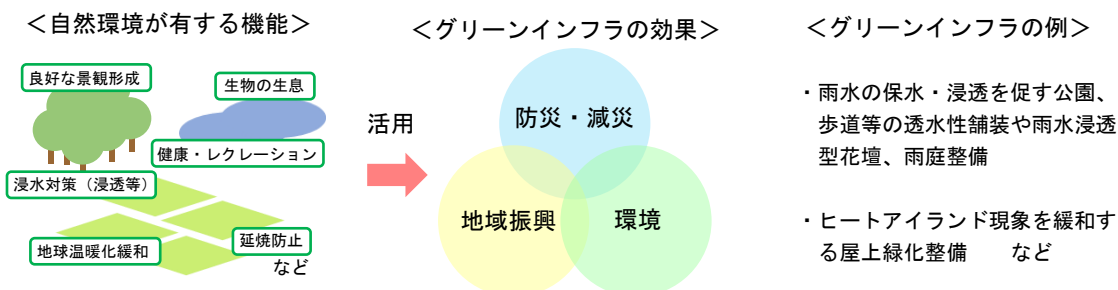
地勢	項目	取組
丘陵部	5-1-①	丘陵部の溜池や雑木林をグリーンインフラとして保全・活用
山間部	5-1-②	緑のダムづくり

エリア別の取組

エリア	項目	取組
片山津温泉・柴山潟 動橋駅・動橋川	5-1-③	浸水被害を抑制するまちなかグリーンインフラの導入
加賀温泉駅	5-1-④	丘陵部の水と緑を活かしたグリーンインフラの保全と活用

グリーンインフラとは

社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能（多様な生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を積極的に活用して、地域の魅力・居住環境の向上や防災・減災等の多様な効果を得ることで、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取組である。



参考：『グリーンインフラストラクチャー～人と自然環境のより良い関係を目指して～』

国土交通省 総合政策局 環境政策課 平成29年3月作成

アクションプラン5-2

加賀市の生態系ネットワークの保全・再生・活用

失われつつある加賀市の生物多様性を守り、再生していくために、海・潟・川・雑木林・耕作放棄地等の面的な広がりを持つ自然環境を保全・活用する。

ひもづく課題

⑧景観改善 ⑩生物多様性の保全

地勢別の取組

地勢	項目	取組
海岸部	5-2-①	海岸部における動植物の多様性の保全と活用
田園部	5-2-②	耕作放棄地をビオトープ化し環境教育のフィールドとして活用
山間部	5-2-③	広葉樹の森の再生

アクセスルート別の取組

アクセスルート	項目	取組
主要幹線道路	5-2-④	自然植生をベースとする沿道植栽の更新

エリア別の取組

エリア	項目	取組
大聖寺・城下町	5-2-⑤	錦城山における多様な自然植生と生態系の保全
	5-2-⑥	旧大聖寺川や熊坂川、まちなか小水路等の水辺環境の保全と再生
山代温泉・萬松園	5-2-⑦	アカマツをはじめとする萬松園の潜在植生の再生
片山津温泉・柴山潟	5-2-⑧	湿性植物や生物の保全と再生
動橋駅・動橋川	5-2-⑨	動橋川における生物多様性の保全
加賀温泉駅	5-2-⑩	丘陵部の二次林の保全と活用
橋立・漁港	5-2-⑪	海浜植生と生物多様性の保全
山中温泉・鶴仙溪	5-2-⑫	鶴仙溪の背後林の適切な保全管理